

配布物の仕事を受けた施設長のほなし

社 会福祉法人いずみ会 千樹の里では、就労継続支援B型の方24名、生活介護の方19名が利用されており、地元の方も多くいらっしゃいます。これまで、障害を持つ利用者さんの仕事は、なかなか目につかない仕事が多いものでした。そんな中、この配布物の仕事をいただけて、施設としても、利用者さんからしても、非常に助かっています。この仕事はほかの市町村では見られないものです。仕事をする彼らからすると、自分が仕事した成果が家に届くので、自分が社会に貢献していることがわかりやすい。家で「これは自分がやったんだよ」って誇らしげに話してくれたという話も聞きました。本人にとっても、家族にとっても、我々にとっても、嬉しいことが多く、全員のモチベーションにもつながっていることを強く感じていますね。



(千樹の里施設長 小池猛さん)

千樹の里では皆さまからの仕事もお待ちしています

可能なこと

- 内職
- 単純な機械を使う作業

難しいこと

- 屋外や土を使う作業、重労働
- 工程を自分で考えるなど、臨機応変さが求められる作業

社会福祉法人いずみ会 千樹の里

ときがわ町大字玉川 1322-3
☎ 65-3033



配布物が お手元に届くまで



① 役場の各課からの配布物が集まります。広報紙のある第4週は特に多い!



② 作業日当日。机を並べ、区長へ渡るメールバッグを並べます。スタッフの指示のもと、間違いのないように確認しつつ、行政区ごとに仕分けします。



③ 先に回覧物をメールバッグに入れます。全戸配布が2種類以上ある場合は、袋詰め作業に入ります。



④ 総出で行う袋詰め作業。約3,600世帯分をビニール袋に入れ、シーラーで圧着します。



⑤ 全てメールバッグに入れ、台車に載せて終了です。お疲れさまでした!

シルバーの方が区長宅へ配達!



作業中失礼!

ミニインタビュー



森夏樹さん

この仕事には慣れましたか。
はい。
他にどんな仕事をしていらっしゃいますか。
シャープの組み立てとかしています。
仕事は楽しいですか。
はい。袋詰め楽しいです。

特集

配布物の「ミガワ」で。

毎月第2・第4金曜日に配られる、町からの配布物。

実は、皆様の手元に届くまでに、障害を持った方たちの活躍があるのです。



町の配布物を袋詰めしている児玉涼歌さん

最

近、広報紙などの配布物が世帯ごとに袋詰めされて配られるようになったことに気が付いた方もいるかと思えます。

ときがわ町大字玉川にある、社会福祉法人いずみ会千樹の里。この施設では、障害者の方が利用されており、一般就労を目指して働いています。

現在、町では、毎月第2・第4金曜日に、区長を通じて各世帯に配布物をお届けしています。配布物は、全世帯に配布する「全戸配布」(広報紙など)と、「回覧」(学校だよりなど)の2種類があります。千樹の里には、その配布物を各行政区に仕分けする作業をいただいています。さらに、「全戸配布」が2種類以上ある場合は、世帯ごとの袋詰めも行っています。このことで、従来は各区長が各班や隣組に仕分けしていたものが、何種類になっても1回で済むようになりました。

現在の行政区は、その数49地区。回覧の枚数にして568枚、全戸配布は3,618枚にも及びます(6月1日現在)。これまでは、各行政区の仕分け作業は現場職員が直営で行い、配布物を預かった区長は、全戸配布の種類の数だけ数え、班や隣組へ分けて配らなくてはなりません。一方、新型コロナウイルス感染症の影響で、障害者福祉施設は仕事の受注が激減していました。この仕事は、3者のwin-win-winを達成することができました。そして、障害者の方の働きがいにもつながることができたのです。

※正式には、「就労継続支援B型」(一般企業に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して、就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供を行っている)の方と、「生活介護」の方が利用されています。